

スズキ、2022年3月期第2四半期決算を発表

- ・4～9月期は増収増益、7～9月期は半導体を含む部品供給不足に伴う減産等により減収減益
- ・業績予想は台数・売上高を下方修正、営業利益は為替円安や原価低減努力等により据置き
- ・中間配当は前年中間配当比8円増配の45円、年間配当は台数見通し不透明なため未定

1. 第2四半期累計（4～9月）決算の業績概況

当期（4～9月）の業績は、前年同期がコロナ影響により大幅に業績が悪化したこともあり、売上高は1兆6,736億円と前年同期に比べ4,034億円（31.8%）増加、営業利益は991億円と同242億円（32.3%）増加、経常利益は1,482億円と同520億円（54.2%）増加、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,005億円と同462億円（85.0%）増加と、増収増益となりました。

2. 第2四半期（7～9月）決算の業績概況

（1）連結決算の状況

当期（7～9月）の業績につきましては、半導体を含む部品供給不足やコロナ影響に伴う減産等により、売上高は8,282億円と前年同期に比べ167億円（2.0%）減少、営業利益は減産影響に加え原材料価格高騰等により、446億円と同290億円（39.3%）減少しました。経常利益は374億円と同443億円（54.2%）減少、親会社株主に帰属する四半期純利益は国内土地の減損損失95億円等により157億円と同368億円（70.0%）減少しました。

（2）各セグメントの状況

① 四輪事業

減産影響や原材料価格高騰等により、売上高は7,398億円と前年同期に比べ266億円（3.5%）減少、営業利益は360億円と同332億円（47.9%）減少しました。

② 二輪事業

新型ハヤブサの投入効果や事業体質改善の進捗等により、売上高は615億円と前年同期に比べ73億円（13.6%）増加、営業利益は25億円と黒字化しました。

③ マリン事業

北米での船外機の販売が引き続き堅調に推移しており、売上高は239億円と前年同期に比べ27億円（12.6%）増加、営業利益は54億円と同12億円（30.6%）増加しました。

④ 所在地別

減産影響や原材料価格高騰等により、日本、欧州、アジアの3地域で減益となりました。

3. 連結業績予想

2022年3月期の連結業績予想につきましては、1台でも多くの製品をお客様にお届けするため、生産への影響を極力少なくするよう努力していますが、半導体を含む部品供給不足による生産への影響は未だ不透明な状況にあり、台数および売上高を下方修正いたしました。営業利益は減産影響を見込むものの、為替円安や原価低減努力等により前回予想を据置きといたしました。

売上高	3兆2,000億円	（前期比0.7%増、前回予想比2,000億円減）
営業利益	1,700億円	（前期比12.6%減、前回予想を据え置き）
経常利益	2,200億円	（前期比11.4%減、前回予想を据え置き）
親会社株主に帰属する当期純利益	1,500億円	（前期比2.4%増、前回予想を据え置き）

（為替レート）1米ドル=110円、1ユーロ=130円、1インドルピー=1.49円

4. 配当

当期の中間配当は前年中間配当比8円増配となる1株当たり45円とさせていただきます。年間配当につきましては、半導体を含む部品供給不足の影響が不透明なため、引き続き未定とさせていただきます。

※連結業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報及び仮定に基づき算出したもので、リスクや不確実性を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、さまざまな要因の変化により大きく異なることがありえますことをご承知おき下さい。実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、主要市場における経済情勢及び需要の動向、為替相場の変動（主に米ドル/円相場、ユーロ/円相場、インドルピー/円相場）などが含まれます。